

第41回法廷だより

2023年11月8日、控訴審第2回期日が札幌高裁で開かれました。

曇天下

傍聴席は概ね埋まった

2023年11月8日午後2時30分より札幌高裁で、第2回口頭弁論期日が開かれました。

傍聴席は50名以上の一般傍聴と3名程度の記者で多くが埋まっていました。

期日では、一審原告、一審被告が、それぞれ以下の書面を提出しました。

1 一審原告は、遠隔地居住の原告において、使用済み核燃料の撤去を求めるにあたり原子炉等規制法上の変更許可が必要となることから、この点を明確にするための控訴の趣旨の変更申立書3と、一審被告準備書面(1)に対し、既提出の一審原告書面によつて反論済みであることを指摘する準備書面①を提出しました。

また、近郊居住の原告において、敷地内断層に関する一審被告準備書面(3)に対し反論しつつ、敷地内断層の追加調査に関

する評価についての主張をする第3準備書面を提出しました。

2 一審被告は、準備書面(4)、(5)を提出し、一審原告からの求釈明に回答するとともに、基準地震動に関する主張及び一審

原告の海底活断層、地震動に関する主張に対する反論をしました。

一審原告意見陳述

一審原告の意見陳述は、須田幸子さんが行いました。

東日本大震災が人災であるとの思いのもと、泊原発廃炉の会に参加して、泊原発の再稼働に反対する活動が続けてきた自身の経歴を説明しつつ、国会事故調査委員会ですら福島第一原発事故を

人災と認識しているほどであり、日本国内における原発適地の不存在や放射性廃棄物処理の方法が確立していないなど問題が山積みであること、原発を再稼働させなくても電力需要を満たすことが可能であること、ウクライナ侵略を機に原発依存度低減方針から180度転換した国の政策の不当性などを訴え、必要な原発は廃炉とすべきであるとの意見を述べました。

次回期日に向けた準備等

一審原告のうち、遠隔地居住の原告の関係では、控訴の趣旨変更申立書に関して裁判所から尋ねられた点について回答することになりました。また、一審原告は、被告準備書面(5)に対する反論を検討することになりました。もつとも、一審被告準備書面(5)が大部にわたるため、反論の提出自体は次々回以降に持ち越しとなることもやむなしとされました。

一審被告は一審原告(近郊居住)の第3準備書面に対する反論と、一審原告(遠隔地居住)の控訴の趣旨変更申立書に対する答弁書を提出することとなりました。また、次々回以降に向けて、基準津波に関する主張や火山に関する主張を検討していくこととされました。

今後の予定等

次回期日は、令和6年3月15日(金)午後2時30分からです。

次回もたくさんの方に傍聴においでいただき、ともに廃炉への意志を表明していきたいように。

(文責)佐々木泰平

